

令和3年度病害虫発生予報第3号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
水稲共通	ヒメトビウンカ（技術情報第4号）	並	並
	縞葉枯病（技術情報第4号）	少	少
	ツマグロヨコバイ	並	並
	萎縮病	並	並
	セジロウンカ	並	並
	トビイロウンカ	並	並
	コブノメイガ	並	並
いちご （育苗床）	うどんこ病	やや少	やや少
	炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ）	並	並
	ハダニ類	やや少	並
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	並
かんきつ	かいよう病	やや多	やや多
	黒点病	並	並
	ミカンハダニ	やや少	並
	チャノキイロアザミウマ	並	やや多
びわ	がんしゅ病	少	少
	灰斑病	少	少
	ナシヒメシンクイ	やや少	やや少
なし	黒星病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	やや少	やや少
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	少	やや少
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（37筆）の結果、葉いもちの発病株率は1.5%（過去10か年平均 0.0%）、発生圃場率は5.4%（過去10か年平均 0.2%）であり、一部多発圃場がみられた。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった

(過去10か年平均 発病株率0.0%)。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。好適条件等の詳細は病害虫防除所ホームページを参照)。

月日	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
6月6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	-	-	●	-	●	-	●	-	-	●
6月13日	-	-	2	●	-	●	-	●	-	-
6月14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

発生指標	?:判定 不能	-:好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	●:好適 条件
------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(37筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

水稻共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容：発生程度 ヒメトビウンカ 並
縞葉枯病 少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(37筆)の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は54.1%(40.6%)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(過去10か年平均 発生株率0.0%、発生圃場率0.2%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.4頭)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ ヒメトビウンカ(第1世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況については令和3年6月16日付け**病害虫発生予察技術情報第4号**による。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容：発生程度 ツマグロヨコバイ 並
萎縮病 並

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬のイネ科雑草地(3地点)から採集したツマグロヨコバイ(第1世代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%

(0%)であった。

イ 6月前期の巡回調査(37筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.2頭(0.1頭)、発生圃場率は54.1%(33.8%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は2.0頭(2.1頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

3. セジロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア セジロウンカはネットトラップ(諫早市)において5月5日に初誘殺を確認し、平年より早かった。

イ 6月前期の巡回調査(37筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.2頭(0.1頭)、発生圃場率は70.3%(28.8%)であった。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.7頭(0.5頭)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病害虫防除所ホームページ参照)。

4. トビイロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 予察灯(諫早市及び佐世保市)において6月3日に初誘殺を確認し、平年より早かった。

イ 6月前期の巡回調査(37筆)の結果、早期水稲におけるトビイロウンカの発生は認めなかった(過去10か年平均 株当たり虫数0.0頭、発生圃場率0.5%)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、トビイロウンカは発生を認めなかった(過去10か年平均 株当たり虫数0.0頭)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病害虫防除所ホームページ参照)。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月2日にフェロモントラップ(諫早市)で初誘殺を確認した。

イ 6月前期の巡回調査(37筆)の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった(過去10か年平均 0.0%)。10㎡当たり成虫数は0.02頭(0.00頭)であった。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲における食害株の発生は認めなかった(過去10か年平均 0.0%)。成虫及び幼虫の発生は認めなかった(過去10か年平均 10㎡当たり成虫数0.4頭)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する(病害虫防除所ホームページ参照)。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(30筆)の結果、発病株率は1.8%(2.1%)、発生

圃場率は3.3% (14.2%)であった。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(30筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、育苗床の除草を徹底するなど環境整備に努める。

イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上りを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床ではビニール展張を行う。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず、適切に処理する。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に薬剤散布を行う。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(30筆)の結果、寄生株率は0.3% (7.1%)、発生圃場率は13.3% (43.7%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

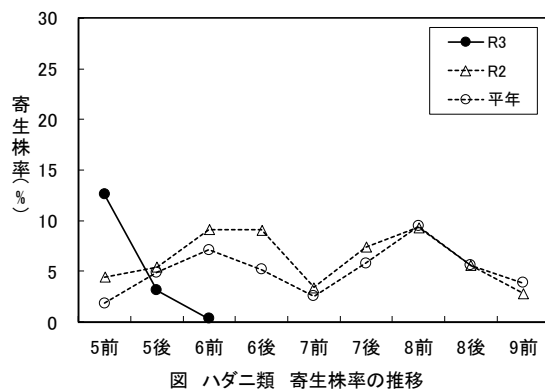


図 ハダニ類 寄生株率の推移

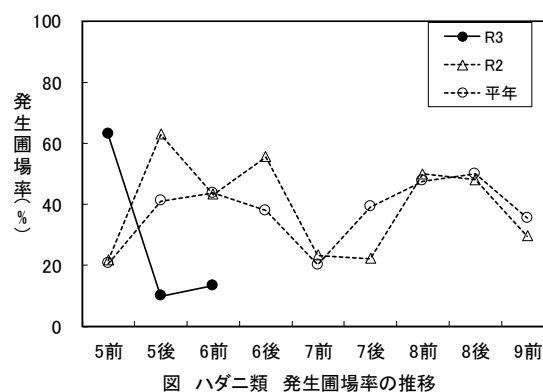


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所)は5.4頭(20.8頭)、発生圃場率は41.7% (70.5%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

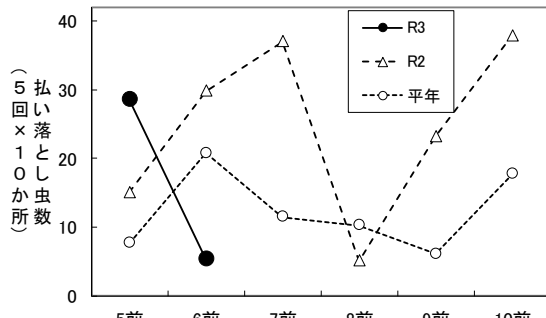


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

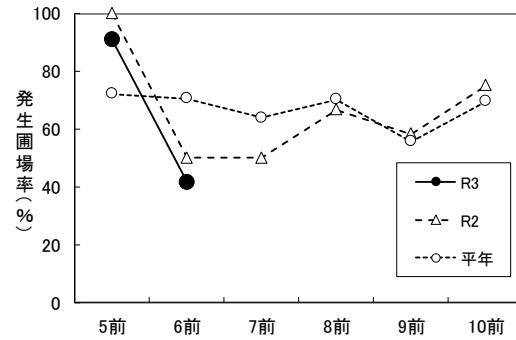


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.2%（0.1%）、発生圃場率は16.7%（4.8%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。

2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は1.7%（7.3%）、発生圃場率は30.6%（40.3%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均被害果率0.0%、発生圃場率0.3%）。

イ 黄色粘着トラップによる誘殺量は、平年よりやや多く推移している（図）。

ウ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

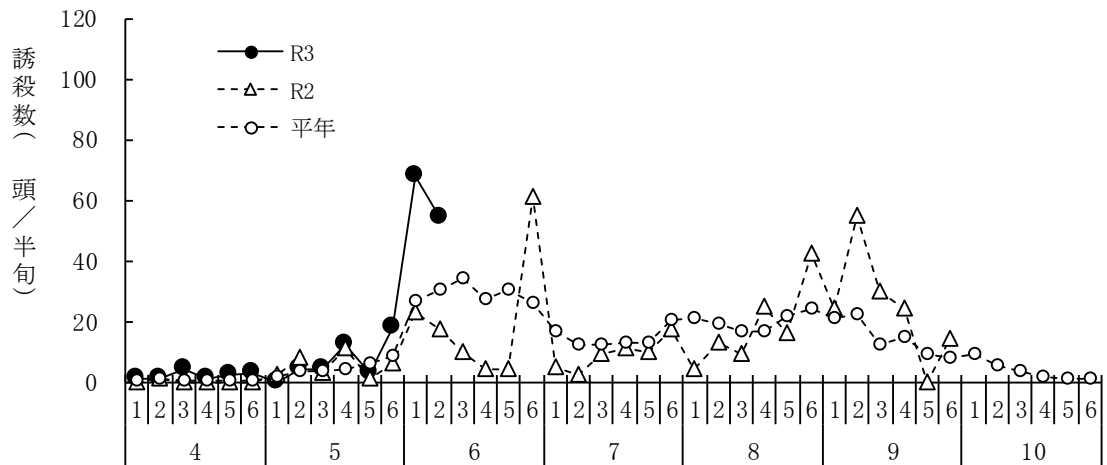


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は、平年より3～11日程度早まる見込みである(表)。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第3世代	6/25	6/26	7/5	6/27	7/7
〃 (平年)	7/1	7/7	7/9	7/2	7/14
〃 (前年)	6/29	6/29	7/7	7/1	7/9
第4世代	7/15	7/16	7/25	7/17	7/27
〃 (平年)	7/20	7/26	7/28	7/21	8/2
〃 (前年)	7/17	7/17	7/25	7/19	7/27
標高(m)	27	4	43	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2021年6月14日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

びわ

1. がんしゅ病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.4%、発生圃場率18.8%)。

2. 灰斑病

- (1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は0.6%(3.6%)、発生圃場率は40.0%(61.3%)であった。

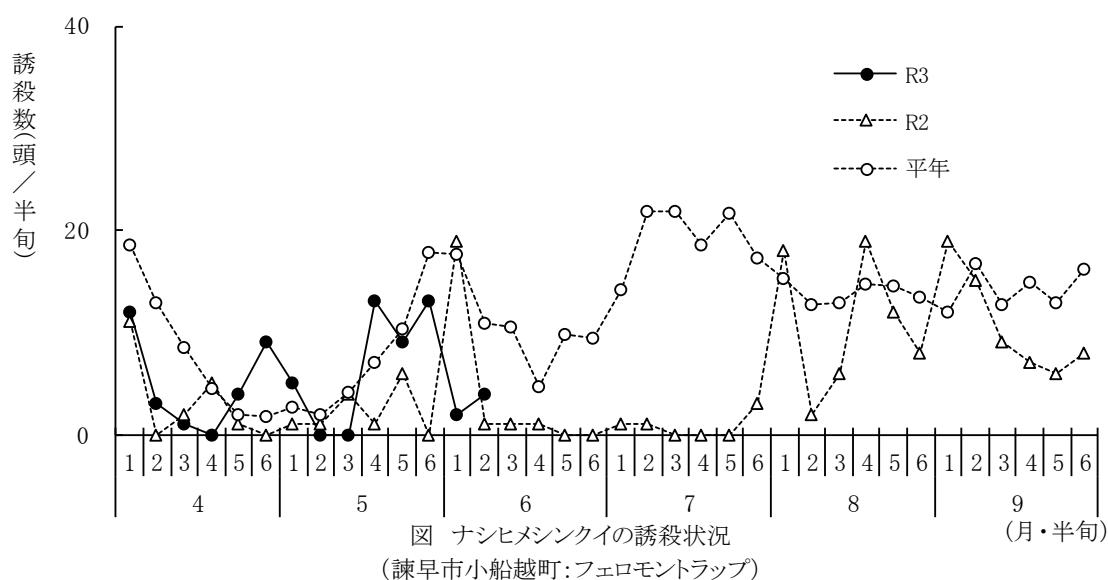
3. ナシヒメシクイ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップの誘殺量は平年より少なく推移している(図)。



なし

1. 黒星病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.4%(0.5%)、発生圃場率は16.7%(30.6%)であった。

2. ナシヒメシクイ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去5か年平均発生を認めない)。

イ フェロモントラップの誘殺量は平年より少なく推移している(びわの項参照)。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

フェロモントラップの誘殺量は平年より少なく推移している(図)。

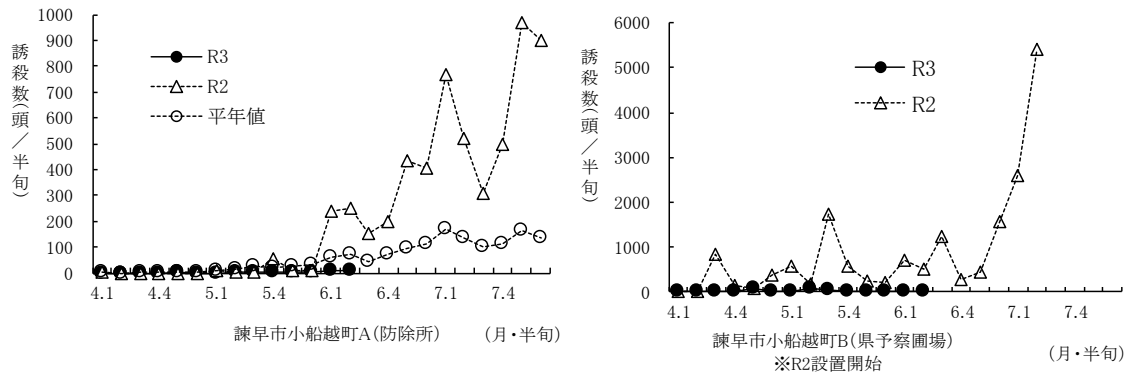


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(19筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は1.3枚(1.5枚)、発生圃場率は68.4%(37.2%)であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和3年長崎県病害虫防除基準P428～429の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(19筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は17.6頭(20.0頭)、発生圃場率は94.7%(90.5%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(19筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.1枚(0.0枚)、発生圃場率は10.5%(5.7%)であった。

イ フェロモントラップ(農林技術開発センター茶業研究室調査)では、6月以降の増加が平年より早い傾向だが、誘殺量は平年並で推移している(図)。

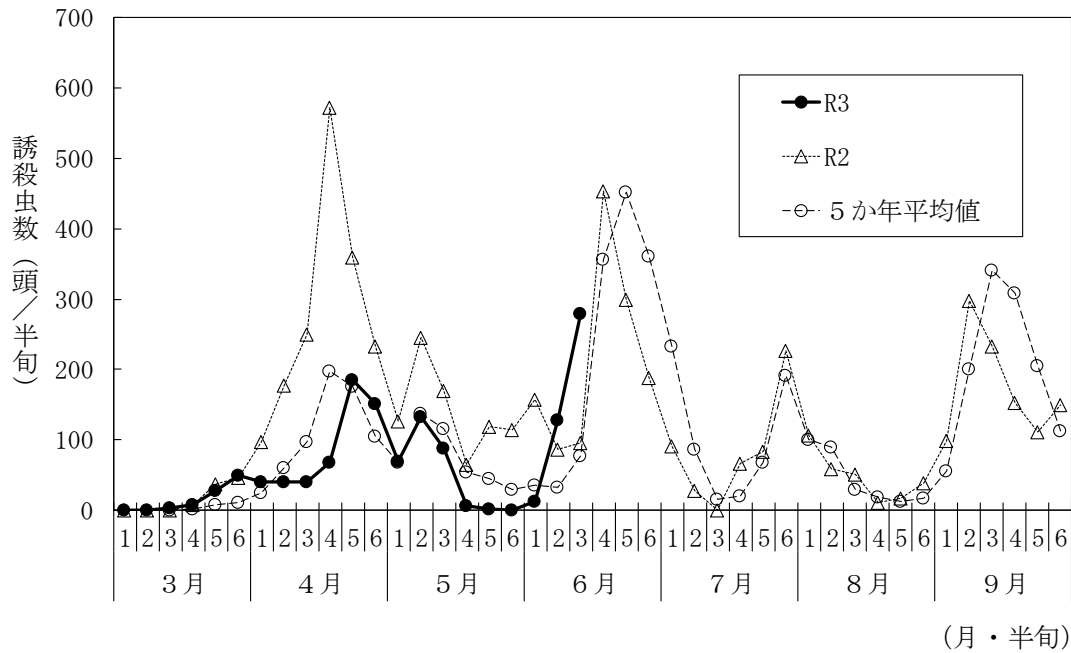


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）
 (3) 防除上注意すべき事項
 フェロモントラップにより発生消長を把握し、巻葉前に薬剤防除する。

4. チャノホソガ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数0.0枚（0.1枚）、発生圃場率は21.1%（6.3%）であった。
 イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年よりやや少なく推移している（図）。

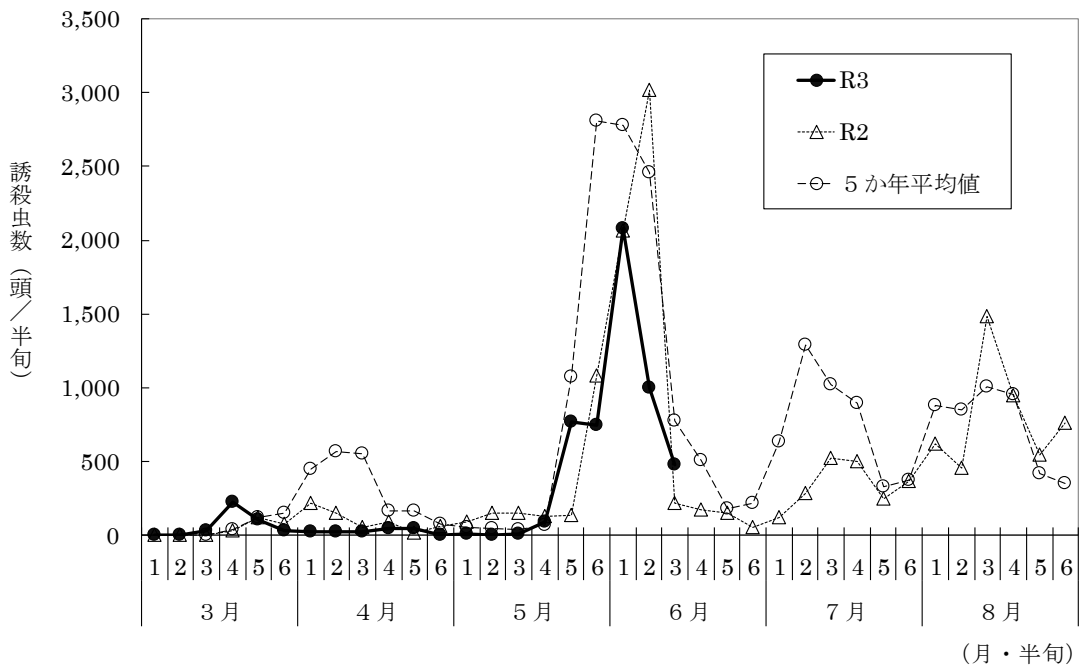


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は0.2%（4.7%）、発生圃場率は15.8%（37.8%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。
 - イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は10.8頭（5.5頭）、発生圃場率は94.7%（68.1%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生株率は1.5%（8.7%）、発生圃場率は47.4%（42.2%）であった。

【参考】

(令和3年6月10日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

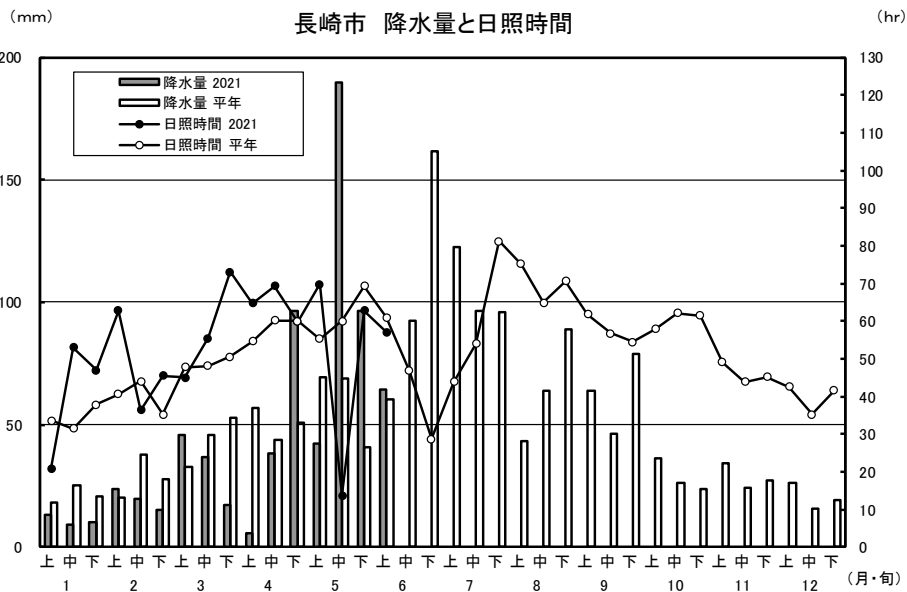
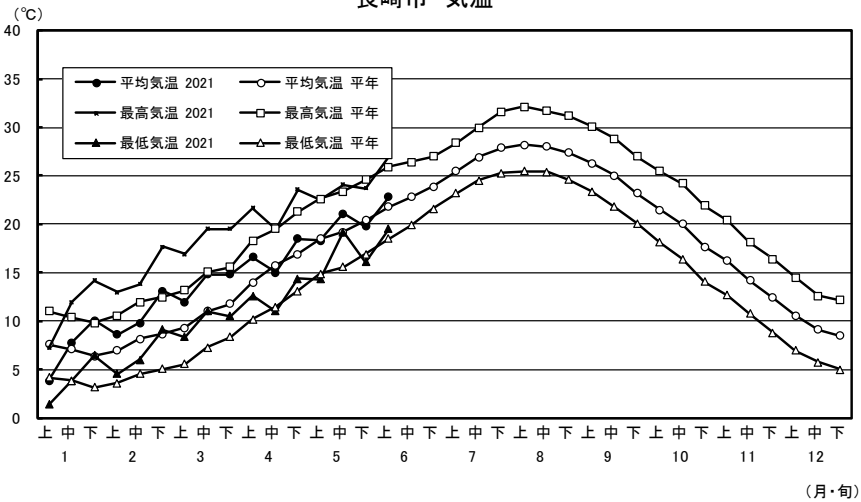
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	40	30	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和3年の気象経過（長崎地方気象台）

長崎市 気温



○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

